

## 願海寺城跡

～城館と城下町の最新発掘調査成果から～

城跡は、富山市街地の西南西へ約8kmの願海寺地内に所在します。射水平野の南東部、鍛冶川(現新堀川)の右岸の微高地に立地し、標高は約2mを測ります。

願海寺城は、上杉謙信方の武将寺崎民部左衛門盛永が拠った城として『上杉家文書』や『信長公記』などに城の名前が登場します。

江戸時代中期頃にはすでに堀などが埋没した記録があり、城の位置については特定されていませんでした。塩照夫氏は加茂神社周辺と推定し、高岡徹氏は周辺の小字名や「願海寺の七曲り」と呼ばれる古道などから城の中心は願海寺字館本地内とみています。



●は発掘調査地点(上はH16年、下はH14年)

### 願海寺城跡の発掘調査

平成14(2002)年、願海寺字館本地内で住宅建築に先立って90㎡の発掘調査が実施されました。調査では、戦国時代の城館とみられる郭と二重の堀が発掘されました。内側の堀(幅3～4m深さ70～80cm)には細い土橋(幅0.5m)が伴います。郭部分からは素掘りの井戸もみつかっています。郭や堀は後に埋め立て整地され、江戸時代前期に至って浅い堀が掘られます。

出土した遺物には、中世土師器や瀬戸美濃茶入れ、塼(焼レンガ)、木簡、将棋駒(歩兵)、漆器、砥石、石臼、炭化米、種実などがあります。中世土師器は16世紀第2四半期に位置づけられます。木簡には表に「多て王き」(人名か)、裏に「暫王り多て己?」と墨書がみられます。裏の文字は「攻め立てる」などの意味があり、館や堀に関係した戦略的な内容と推定されています。

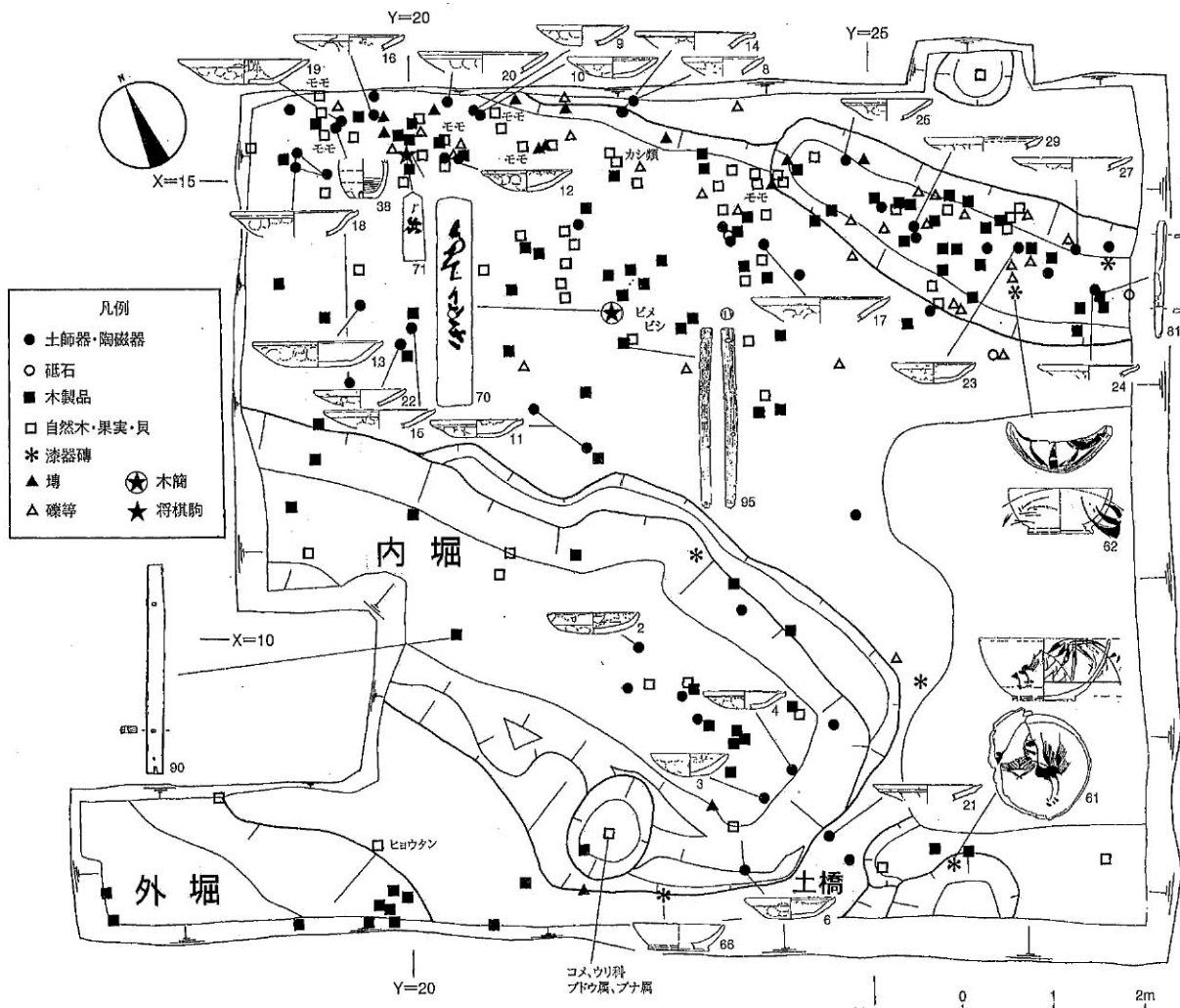
### 願海寺城下町の発掘調査

平成16(2004)年、野々上地内で専門学校建設に先立ち1,600㎡の発掘調査が実施されました。調査地は願海寺城跡の北東部域にあたり、戦国～安土桃山時代の溝や土坑、ピットなどの遺構が発掘されました。溝は「L」字状や「コ」字状に方形区画を形成するものとみられ、屋敷地の区画に伴う溝とも考えられます。

出土遺物には中世土師器や珠洲・越前・青磁などの陶磁器、漆器・木簡・下駄・曲物・くしなどの木製品、砥石、石臼、塼、銅銭、筭などがあります。中世土師器は16世紀中頃から後半のものと思われる。

明治44年発行の迅速図を元に、発掘調査成果や街道の方向・地割り・段差などの微地形から、願海寺城と城下町の復元が試みられています(次頁図)。城下町エリアは東西約1km、南北約600mが推定されています。

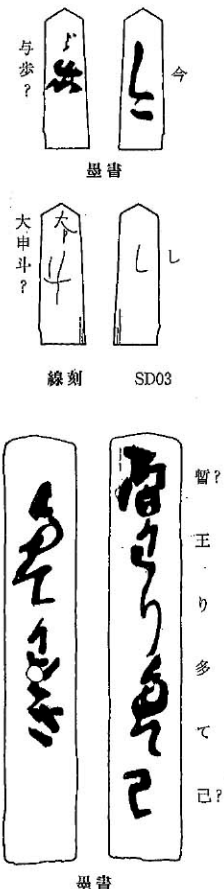
願海寺城および城下町については、これらの調査などで次第に明らかになりつつありますが、いずれも小規模の発掘調査で、全容解明にはしばらく時間がかかると考えられます。今後、建物跡の発掘や文字資料の増加などの調査・研究成果が期待されます。



願海寺城跡遺物分布図 (1:80)



願海寺城下町復元図 (ベース図は明治44年発行迅速図)



(富山市教育委員会2003『富山市内遺跡発掘調査概要V』、  
富山市教育委員会2005『富山市願海寺城跡発掘調査報告書』より)